

公益社団法人日本地震学会 2025 年度第 2 回理事会議事録

1. 日 時 2025 年 7 月 11 日 (金) 9:30~12:15
2. 場 所 Zoom を利用したビデオ会議により開催
議長の所在：京都大学大学院理学研究科 京都府京都市左京区北白川追分町
議事録作成者の所在：日本地震学会事務局 埼玉県さいたま市大宮区仲町
2-80-1 KS・Dio 205
3. 理事数 15 名
4. 出席者 理事 14 名，監事 2 名
 - ・理 事：久家慶子，浅野陽一，加藤愛太郎，加納靖之，篠原雅尚，武村俊介，土井恵治，
中原 恒，西田 究，馬場俊孝，廣瀬 仁，宮澤理稔，室谷智子，八木勇治
 - ・監 事：植竹富一，谷岡勇市郎
 - ・オブザーバ：日本地震学会賞選考委員長，論文賞選考委員長，若手学術奨励賞選考委
員長，
 - ・事務局：中西のぶ江，岡野美紀子

5. 審議事項

議長久家慶子は，理事 14 名及び監事 2 名出席のもとに理事会を開催した．出席者の音声と映像が即時に他の出席者に伝わり適時的確な意思表示が互いにできる仕組みを確認後に，以下の議案について審議に入った．

第 1 号議案 学会賞（日本地震学会賞，論文賞，若手学術奨励賞）受賞者の選考について

2025 年度日本地震学会賞推薦候補者について日本地震学会賞選考委員長より選考結果が報告された．審議の結果，日本地震学会賞受賞者を以下の通り決定した．

2025 年度日本地震学会賞

受賞者：佐藤 春夫

授賞対象業績名：不均質構造内における短周期地震波の伝播と散乱に関する研究

なお，日本地震学会賞選考委員会から申し送り事項が提示され，選考委員の専門分野や選考委員会の選任時期についての問題点が挙げられた．これらの問題については，表彰委員会において検討し，理事会で方針を承認する手続きとする．

2025 年度論文賞推薦候補論文について，論文賞選考委員長より受賞候補論文 3 編の選考結果が報告された．審議の結果，論文賞授賞対象論文を以下の通り決定した．

授賞対象論文

題名： Regional probabilistic tsunami hazard assessment associated with active faults along

the eastern margin of the Sea of Japan

著者名：Iyan E. Mulia, Takeo Ishibe, Kenji Satake, Aditya Riadi Gusman, Satoko Murotani

掲載誌名等：Earth Planets Space (2020), 72:123

DOI: 10.1186/s40623-020-01256-5

題名：High-resolution monitoring of hydraulically induced acoustic emission activities using neural phase picking and matched filter analysis

著者名：Makoto Naoi, Shiro Hirano, Youqing Chen

掲載誌名等：Progress in Earth and Planetary Science (2025) 12:24

DOI: 10.1186/s40645-025-00696-5

題名：A review of shallow slow earthquakes along the Nankai Trough

著者名：Shunsuke Takemura, Yohei Hamada, Hanaya Okuda, Yutaro Okada, Kurama Okubo, Takeshi Akuhara, Akemi Noda & Takashi Tonegawa

掲載誌名等：Earth Planets Space 75, 164 (2023)

DOI: 10.1186/s40623-023-01920-6

なお、論文賞選考委員会から選考後に委員会内で議論された選考日程、非会員への対応及び選考基準案について報告された。議論内容については、以前に表彰委員会において検討した内容も含まれていることから、表彰委員会において議論内容に対するまとめを行い、表彰委員会と選考委員会の意思疎通をより綿密にすることを確認した。

2025 年度若手学術奨励賞推薦候補者について若手学術奨励賞選考委員長より受賞候補者 3 名の選考結果が報告された。審議の結果、若手学術奨励賞受賞者を以下の通り決定した。

受賞者：伊東 優治

授賞対象研究：沈み込み帯における断層すべり現象の多様性の解明とその国際展開

受賞者：佐藤 大祐

授賞対象研究：震源物理および逆解析における数理的基礎研究

受賞者：三反畑 修

授賞対象研究：地震波・津波の波形記録解析および数値計算に基づく海域火山現象の解明

第 2 号議案 日本地震学会賞推薦委員会からの要望について

八木理事（表彰担当）から日本地震学会賞推薦委員会の役割について推薦委員会からの意見が提示された。推薦委員会の現在の推薦手順に関して、推薦委員会の負担が非常に大きいことから、推薦委員会が直接推薦する方法から受賞候補者となりうる方の関係者へ推薦を依

頼する方法へ変更すること、会員からの推薦がなかった場合に推薦委員会を組織することなどが提案された。いずれの提案についても異論はなかったことから、表彰委員会において推薦委員会の推薦手順について検討を行い、理事会で推薦手続きを確認することとした。

第3号議案 公益社団法人日本地震学会代議員選挙規則の改定について

事務局より、定款の改正に伴い代議員選挙規則の変更について提案された。審議の結果、代議員選挙規則の変更について承認した。

第4号議案 著作権管理委託 AI 利用の許諾について

事務局より、著作権管理委託 AI 利用の許諾について説明が行われた。関連学協会で足並みをそろえて対応する予定であったが、5月28日に開催された JpGU 学協会会長会議において日本地質学会と日本地球化学会からすでに許諾の回答を行ったとの報告があったとの情報が久家会長から提供された。審議の結果、現在、著作権管理委託をしている著作物について新たに AI 利用の許諾の回答を行うことを承認した。

第5号議案 地学オリンピックの協賛金について

事務局より、地学オリンピックの協賛および支援金について説明が行われた。審議の結果、協賛および支援金額については例年の通り協賛金 2 口 10 万円の拠出を承認した。

第6号議案 入会承認について

事務局から、入会申請者の承認に関する件について諮られ、審議の結果、正会員に申し込みのあった 14 名（内学生 7 名）の入会を承認した。また、提出された学生会費適用申請書を承認した。

6. 報告事項

業務執行理事及び事務局より報告が行われた。

1. 事務局より、正会員 6 名（内学生 3 名）の退会届が提出されたとの報告があった。
2. 深畑理事（地震編集担当）より提出された資料に基づき、報告が行われた。地震（学術論文部）の編集状況について、冊子体 5 月号に 1 編の論文を掲載したこと、7 月号にも解説 1 編を掲載予定であること、日向灘地震特集号を含む 9 月以降の編集状況について報告された。
3. 武村理事（学会情報誌編集担当）より、業務執行報告が行われた。『地震（ニュースレター部）』及び定期メールニュースの発行を滞りなく行っていること、メールニュースへの「地震の大辞典」会員割引の掲載経緯、過去号の WEB 公開について報告された。

4. 西田理事（大会・企画担当）より業務執行報告が行われた。2025 年 7 月 8 日に委員会を開催し、2025 年度秋季大会の準備状況、2026 年度秋季大会及び一般公開セミナーの準備状況、JpGU2026 のセッション編成について意見交換を行ったことが報告された。JpGU2026 では口頭発表の確保のため、セッションの統合（「地震予知・予測」と「地震観測・処理システム」と統合し、「地震学一般」とする）について検討し委員会です承したことから、JpGU2026 が AGU と共催により原則英語セッションとなることから、日本語での発表が適切であろうセッションの言語については調整予定であるとの報告があった。
5. 廣瀬理事（欧文誌運営担当）より、業務執行報告が行われた。EPS 誌運営委員会の開催、JpGU2025 での広報活動及び関係者による意見交換会の開催、EPS 誌のインパクトファクター（2-year：2.5, 5-year：2.8）および CiteScore（5.7）の報告、EPS 誌運営委員会の体制、2024 年の査読者への謝辞論文の出版について報告された。
6. 加藤副会長（連絡会議担当）より業務執行報告が行われた。JpGU2025 においてミャンマーの地震の緊急セッションを立ち上げたこと、2025 年 5 月 16 日に開催されたオンライン談話会の実施報告、2025 年 7 月 5 日に開催された特別シンポジウムの実施報告、次回の連絡会議開催予定について報告された。
7. 土井理事（ジオパーク支援担当）より、業務執行報告が行われた。JpGU2025 においてジオパークセッションを開催したこと、2025 年度秋季大会ジオパーク巡検の準備状況、ジオパーク地震学習会の準備状況について報告された。
8. 久家会長から将来構想検討 WG の構成員、第 1 回開催状況および今後の予定が報告された。今後もオンライン会議での議論を継続する。また、次回 WG の資料となる会員数の推移、会員の年齢分布・所属機関分類分布、会費収入の推移、学生会費適用延長の実績などの情報が共有された。行動計画 2012 のこれまでの実施状況の評価等は、WG である程度まとまった時点で理事会に共有する予定。浅野理事による財政状況の説明も含めて秋季大会での意見交換会に向けた準備も今後行う。また、共有された資料に関連して、会員の職業や分野に偏りがあることを考慮して今後の議論を行ったほうが良い、秋季大会に参加しない会員もいることから WEB アンケート調査を実施したほうが良い、シニア会員の活躍を検討した方がよいなどの意見が出された。
9. 加納理事（学校教育担当）より業務執行報告が行われた。教員サマースクールの準備状況について報告された。
10. 加納理事（普及行事担当）より業務執行報告が行われた。2025 年度地震火山地質

こどもサマースクールの準備状況、2027 年度以降の開催地への立候補を検討している団体に向けてオンライン説明会を行ったことが報告された。

11. 久家会長から国際委員会の活動について報告された。2026SSA（パサデナ開催）の Kuo-Fong Ma プログラム委員長から協力の要請があり、会員に向けて共同セッション等提案募集に関する告知を 7 月の定期メールニュースで行うことが予告された。国際委員会に会員から共同セッションの提案があった場合には、国際委員会からの提案に基づき理事会での手続きを経て SSJ からの協力になることを確認した。
12. 篠原理事（広報担当）より業務報告が行われた。なゐふるの出版について、記者懇談会の実施、なゐふるメーリングリストの更新準備について報告された。なゐふるメーリングリストについては、メーリングリストはもう古いのではとの意見も寄せられたが、代替えとなるサービス利用がないため、名称変更をしてメーリングリストの形式で継続する予定であるとの説明があった。
13. 久家会長より、2025 年 5 月 28 日に開催された日本地球惑星科学連合第 32 回学協会長会議の議事録が提示され、懇談内容について報告された。日本地球惑星科学連合活動報告、幹事会報告、日本学術会議の近況報告、次期学協会長会議議長の選任、その他に AI 利用に関する権利委託の件について報告が行われた。